

Tokyo 2020 Nutrition for Growth Summit

Responsible Business Pledge for Better Nutrition

背景

東京 2020 成長のための栄養(N4G)サミットは、栄養不良というグローバルな課題に対する世界の取り組み方を変革する歴史的な機会を提供する。サミットは、国連(UN)の栄養に関する行動の10年の中間年であり、SDGsを達成するため残り10年という重要な時期に開催される。

これらの目標を達成するためには、栄養に対する世界的な投資を相当規模に拡大する必要がある。すなわち、世界の三人に一人が、栄養不良、肥満、過体重、微量栄養素欠乏症の少なくとも一つの形態に苦しんでおり、現在の傾向では、2025年までに二人に一人が栄養不良になると予測されている(世界栄養報告2018)。国、ドナー、民間セクター、市民社会は、進歩を促す革新的な方法を模索しているが、行動を加速化する必要がある。世界及び国レベルの目標は、明確で意味のあるコミットメント及び行動に転換される必要があり、コミットメントを行う者はその責任を負わなければならない。(N4G Commitments Guideからの引用)

経済界は、各国政府、ドナー、多国間団体、慈善家、市民社会、その他の利害関係者とともに、世界の栄養目標と目標の達成を支援するためのコミットメントを行うことが求められる。

Tokyo Responsible Business Pledge for Better Nutrition

Tokyo N4G Responsible Business Pledge for Better Nutrition(以下、「Pledge」という)は、東京 2020 N4G サミットで提示される民間セクターのコミットメントの枠組みである。

本 Pledge は、Tokyo N4G Principles of Engagement に則り、栄養に影響を与えるあらゆるセクターやバリューチェーン上のあらゆる段階における企業や団体による署名のために有効である。

本 Pledge に署名する企業・団体は、以下の項目に関する公式声明を実施することが期待される。

1. 「2030年持続可能な開発アジェンダ」における中核として、栄養改善というグローバルな課題の緊急性を認識する。
2. 民間セクターが果たすべき重要な役割を認識し、積極的な貢献を行うためにコミットする。
3. 政府に対し、特に、政府全体の考え方、政策の一貫性、イノベーションに配慮した政策決定、官民の協議、協力、パートナーシップの強化を通じて、民間セクターが栄養改善能力を十分に発揮できる環境を整備するよう求める。

このプレッジに署名する企業や団体は、次の事項を実行する。

1. 栄養改善を長期的かつ取締役会級の優先事項とする。

2. 栄養関連の国連持続可能な開発目標の達成に向けて、特に SDGs#2 と#3 に重点を置き、意味のあるビジネス上の貢献を行うための企業戦略を導入する。
3. フードシステムの体系的性質(例えば、経済的負担能力、アクセス可能性、農家の生活保護、環境管理を優先するとともに、社会的・環境的要因との負のトレードオフを緩和する)を考慮した栄養への投資を確保するための措置を講じる。
4. 企業の業務範囲が限定されており、それが認められていない場合を除き、下記の N4G コミットメント分野のうち 3 つ以上の分野において、特定の適切な具体的なコミットメントを行う。
5. 東京サミットのアカウンタビリティフレームワークを通じて、Tokyo N4G Responsible Business Pledge としてなされたコミットメントに関し、報告する。

Commitments

コミットメントは、以下の 5 原則を満たすべきである。

1. スマートであること（具体的であること、測定可能であること、達成可能であること、関連性があること、期限付きであること。）及び現状維持を超えて、現在のプログラミングの規模、範囲、目標を拡大すること。
2. 作成する企業/企業団体のコアビジネスと密接に連携すること。
3. 栄養不足と栄養過剰の両方を含む栄養課題のアウトカムに対して、意味のある、明らかにポジティブな影響を与えること。
4. 社会的又は環境的なシステムに対するいかなるネガティブな影響も緩和され、かつ、ポジティブな影響が増幅されるような社会的又は環境的な要因とのトレードオフを考慮すること。
5. 国内/国際的な栄養に関する優先事項や「N4G 参加原則」及び「N4G Accountability フレームワーク」との整合性をとること。

官民、B2B、マルチステークホルダーパートナーシップが奨励される。理想的には、公的セクターのコミットメントを可能にすることにより、コミットメントは相互に補強され、強化される。企業は、必要に応じて個別的及び集団的なコミットメントを行うことが奨励される。

コミットメントを作成する手順をサポートする N4G Commitment Guide(2020 年 3 月更新)を参照すること。 <https://nutritionforgrowth.org/wp-content/uploads/2020/04/Nutrition-for-Growth-2020-Commitment-Guide-Updated-March-2020.pdf>

Pledge の署名者は、以下の 7 つの分野のうち 3 つ以上の分野において、上記の原則に沿った具体的なコミットメントを行うことが求められる。

Commitment Area:	スコープ:各コミットメント分野に当てはまるトピックの例(網羅的でない)	SMART コミットメントの例(Pledge によって策定されたものであり、署名した企業は自社にとって重要なコミットメントを行う。)
1. 栄養センシティブな農業	栄養改善のための植物育種(バイオ栄養強化)、多様な作物の栽培、高栄養供給、農業生物多様	<ul style="list-style-type: none"> • バイオ栄養強化作物の割合を X%増加 • XYZ 市場で X 年に栽培される作物の

	性、再生農業、地球に優しい農業	多様性を X%拡大
2. 栄養改善のための製品の（再）企画・開発	開発、再構成、微量栄養素供給、商品設計・開発、新興市場における高タンパク食品・飲料	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までにポートフォリオの X% が栄養強化または生物強化された成分を含むように強化 2030年までにポートフォリオ全体のナッツ/種子/豆類/全粒/果物/野菜/ファイバーの生産/供給/使用量を X%増加 2030年までに製品ポートフォリオ全体で砂糖またはナトリウムを X%削減。2030年までに製品ポートフォリオに占める砂糖またはナトリウムの割合を xx/100 g 未満に削減 与えられたヘルスターまたは栄養スコアを満たす企業の製品(値で)のシェアを X%増加
3. 栄養改善のためのビジネスモデル・イノベーション	新しいビジネスモデルにおける栄養の優先順位付け; 栄養改善のためのバリューチェーン・イノベーション; 栄養が確保されたサプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> 食物多様性の実証可能な(SMART ターゲットを用いた)改善を示すサプライチェーンにおける人を X 人に到達
4. 責任あるマーケティング	子どもたちへの責任あるマーケティング、責任あるマーケティング全般	<ul style="list-style-type: none"> WHO 「子どもへの食品・ノンアルコール飲料の販売促進に関する勧告」を支援し、子どもへの食品・飲料の販売を制限する全社方針を実施
5. 健康的な食事の促進	明確な栄養情報の提供、消費者に優しい表示、栄養リテラシーの推進、健康的な食事の促進、shifting diets、透明性	<ul style="list-style-type: none"> 2030年までに、すべての製品について、消費者にわかりやすい栄養情報を、出荷前、オンライン、アプリなどで提供
6. workforce nutrition	職場での健康食、栄養教育、栄養にフォーカスした健康診断、母乳育児支援	<ul style="list-style-type: none"> CGF/GAIN の Workforce Nutrition Pledge に署名
7. 栄養改善のための財源と投資	栄養へのインパクト投資、栄養食品の製造・提供を行う中小企業の支援、栄養を優先する企業のためのより良い財務条件の提供	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業が技術を利用できるようにし、2030年までに X カ国で iTFA を廃止 ファンドレベルでは、ファンドの投資ポートフォリオの X%を栄養価の高い食品に投資 (GAIN の Nutritional Food Financing Facility(N3F)で用いられているような栄養価の高い食品の定義について合意されたものを用いて) 部門レベルでは、栄養価の高い食品を優先して農業食料の X%が支出

